もっと知りたいベトナムのこと～介護現場を共に支える仲間を理解するために～

介護保険市民オンブズマン機構大阪
〒530-0041　大阪市北区天神橋３丁目９-２７

助成事業の概要

１．実施目的：人手不足が続く中、外国人介護職員を雇用する施設が増えている。現場では「早く仕事に慣れ、日本の文化・生活習慣を理解してほしい」と願いがちだ。しかし相互理解を進め、偏見や人権侵害を防ぐには、外国人職員の国の生活文化を知ることも求められる。研修ではベトナムに焦点を当て、同国の歴史・文化・生活について日本人職員が教養として学ぶ機会を提供し、「ともに働く仲間」に関心を寄せることで、相互理解を進める一助とする。

２．時期：2022年４月～2023年１月

３．内容：

(1) 職員研修実行委員会の開催：講師、プログラム、内容等について協議。開催後の振り返り。

(2) 研修の開催（2022年10月４日）：講義「もっと知りたいベトナムのこと」（講師：ファン・ティー・ミー・ロアン、道上史絵）、発表「介護現場で働いて　日越の違い、あんなこと・こんなこと」（発表者：グエン・ティ・ホア、レ・キム・タン）、会場：ドーンセンター大会議室（オンラインでライブ配信も）

事業の成果

（1）歴史・生活文化・人との関わり方など、ベトナムを専門とする研究者の講義やベトナム人介護職員の発表を通して、これまであまり知られていなかった多くの事柄を学ぶことができた。

・ロアン講師の講義から、紀元前から1975年のベトナム戦争終結までの間、中国・フランス・アメリカの侵略戦争とどまらず、自国のメコンデルタ南進を含め、歴史上、他国との紛争が絶えず、国として平穏な期間が非常に少なかったことを知り、島国日本との違いを痛感した。

・道上講師は、技能実習生への調査結果から入国後「日本人は親切」の評価が有意に低いことを指摘。「母国語は禁止」といった不寛容さ、複数ある呼び方など配慮のない日本語が、その要因となっていることを指摘。仕事において日本人職員は、会話の中で常にベトナム人職員の反応を確かめ、より理解しやすいよう臨機応変に言葉を修正・確認しながら、指導・説明することが肝要との助言を得た。

・ベトナム人職員からは、テト・中秋節などの行事についてや、家族だんらんを大切にする国民性が伝えられた。

（2）変化に富むプログラム展開を図ることができた

・職員研修実行委員会の提案で、研修にはベトナム人職員の発表も交えた。同じ施設の日本人職員がインタビュアーとなって２人１組で行う方法を取ることで、わかりやすい発表となった。また、講義も研究テーマの異なる研究者２人に担当いただくことで、メリハリの利いた流れとなった。

（3）受講者から高い満足度が得られた

・受講者アンケートでは、回答者の87.5%が「大

変良かった」「よかった」と回答。「ベトナムの歴史はもちろん、相手のことをよく知ろうとする国民性がよく理解できた」「ベトナムの介護の現状を知ることができた」「仕事面でのコミュニケーションのコツをつかむことができた」「発表者の話で、ベトナムでは昼寝の習慣があることを知り、当施設の留学生アルバイトが午後眠そうにしていることに合点がいった」などの声が寄せられた。

成果の広報・公表

（1）歴史・生活文化・人との関わり方など、ベトナムを専門とする研究者の講義やベトナム人介護職員の発表を通して、これまであまり知られていなかったベトナムの一面を学ぶことができた。とくに、紀元前からベトナム戦争終結まで、他国との紛争が絶えなかったという歴史から、ベトナムが置かれてきた厳しさを知ることができた。

（2）２時間半の研修をメリハリあるプログラムで展開できた。講義は、「歴史・文化」と「日本人のコミュニケーションの取り方への工夫」という異なるテーマで研究者２人がそれぞれ担当。ベトナム人職員の発表は、同じ職場で働く日本人職員がインタビュアーとなることで、ユーモアと活気と分かりやすさを生み出した。

（3）受講者から高い評価を得た。回答者の87.5%が「大変良かった」「よかった」と回答。歴史・国民性・生活習慣・仕事上での関わり方など参加になった事柄に多くの記述が寄せられた。

今後の展開

（1）介護現場で働く人が多いフィリピン・インドネシア・ネパールの国々についても、今後、取り上げ、学ぶ機会を設けていきたい。介護現場では、「すぐ必要なこと」や「通達が出ていること」についての研修参加には意欲的だが、教養講座的なものについては二の足を踏む場合が少なくない。しかし教養を培うことは、即効性はないがやがては血肉となり、介護職員の人間性と応用力を高める。こうした面にも触れながら、受講を喚起する方法を模索していきたいと思う。

（2）外国人介護職員の育成と共存は、これからの介護現場の重要なテーマである。施設・法人の存続と介護保険サービスの充実いかんは、外国人介護職員の成長と定着にかかっている、と言っても過言ではない。当団体では外国人介護スタッフを応援・支援する事業を始めているが、同事業とも連携させながら、例えば日本人介護職員ができる「日本語サポートの方法とコツ」の研修なども今後展開していく。